

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 食品生命科学科

職階 教授

氏名 澤野祥子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

大学では、食品生命科学科の主に、機能分野の科目を担当している。カリキュラムツリーの流れの中で、学生に専門知識を着実に定着させることを意識して授業を行っている。実習科目については、実験手技の向上はもちろんのこと、レポート・プレゼンテーションなどの発信力も磨けるようなシラバス作成と授業運営を心掛けている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
食物アレルギー論	食品生命科学科	選択	3	41
食品機能学	食品生命科学科	選択	3	44
応用栄養学	食品生命科学科	選択	3	41
食品学実習	食品生命科学科	必修	2	56
食品開発PBL実習	食品生命科学科	自由	2	28
卒業論文	食品生命科学科	選択	3	6
卒業論文	食品生命科学科	選択	4	7
食品健康科学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	2
科学者・研究者論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	17

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

大学教育では、食品関連の知識を不足なく学生に定着させることを念頭に置いて教育業務を行っている。例えば他大学にも自身の担当科目に該当するような履修科目があると思われるが、本学を卒業した学生も他大学を卒業した学生と比べて遜色ない知識を得られるよう、該当科目の中で一般的に教育される事項は漏らさないように、かつ、内容も充実させるよう心掛けている。また、「分かる」ことは学びの楽しさの根源だという思いもあるため、「分かりやすさ」に重きを置いて、勉強の楽しさを学生に体感してもらえることを目指している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

先述の教育理念の実現のため、大学生として持つべき必要な知識や技術など、食品分野の素養を授業や実習の中で植え付けることを重要視している。卒業してから食品分野に進んで働く学生はもちろんのこと、食品分野に進まない学生にとっても「食」は生きる上では欠かせないものであるため、大学での学びがそれぞれの学生の血となり肉となって卒業しても頭の片隅に残っており、学んだことを活かしてくれれば本望である。そのためにも出来るだけ、入門の知識から入り「誰にでも分かる」というレベルから、徐々に専門的な知識に段階的に移行していき、該当科目に対して最終的に大学生レベルの素養を持って単位取得できるように14回の授業を構成している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

座学については、一方通行にならないよう、必ず学生自身が自分で考える時間をとるように心がけている。授業の後半では該当回の内容を振り返る確認問題を解く時間を設け、答え合わせと解説を毎回実施している。その問題は次の週に、小テストとして出題し、スモールステップで知識の確認と蓄積ができるよう工夫をしている。実習については、実験結果をレポートで提出するだけでなく、スライド課題も課している。実験は手を動かすことも大事だが、それと同等にデータを正確に整理して結果を示し、結果から考えられることを導き出す能力が必要だと考える。また、それを他人に発信する力も同様に重要である。したがって、実験以外のレポート作成やスライドプレゼンテーション作成も手厚く授業の中でフォローするように意識している。

(2) ICTの教育活用

有

AzaMoodleやGoogleドライブなどのツールを積極的に活用し、授業を実施している。新型コロナ禍が明けて対面授業中心の形式に戻ったが、2020～2021年の遠隔形式の授業で好評だった、オンデマンド授業の繰り返し視聴や、実習動画の制作および提供については引き続き実施している。特に実習については、実験を行う前に事前動画視聴の機会を作っていることが学生の理解に役立っているようである。今後もICT教育の有用なところは残しながら授業運営をしていきたい。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

「できるだけ分かりやすく」を心掛けて授業を実施している。そのためにスライド資料や教材も字が多いものよりも写真やイメージ図が多用されており、直感的に理解できる教材を選択・作成するようにしている。動画・映像教材も使用できるものは授業内で使って、五感で印象に残るように工夫している。

(2) 学生の理解度の把握

B

ほぼ毎回、授業はじめに小テストを行い理解度の確認を行っている。また、全授業の半ばには中間テストを実施している。それらの実施により成績上位・中位・下位学生および、指導が必要な学生を把握することが可能である。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

座学では、小テストを課すことで、自宅や授業前に復習する機会を取りやすい環境づくりをしている。授業評価アンケートにも、小テストがあることで復習しやすいという声をもらっている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

日頃の授業では全体への授業教授や声掛けが中心となり、個々の学生とのコミュニケーションを十分に取る時間があまり設けられないため、小テストの最後にコメント欄を設けて、学生が自由に質問や意見を記載できるようにしている。実習ではグループごとに進捗状況を把握しながら、各ステップが終わるごとに確認を取る時間を設けるなど、教員と意思疎通しやすい環境を整えるよう努力している。

(5) 双方向授業への工夫

B

集団授業において、出来るだけ一方通行にならないよう、要所所でアンケート形式で手を挙げさせたりなどの工夫を行っている。また、授業によっては、学生自身がプレゼンを行ったりなど発表する機会を設け、能動的に授業に関われるようにしている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価で好評だった点は続け、不評だった点は改善を試みている。例えば「分かりやすい」というコメントについては「十分理解できている」と捉え、単元の難易度を据え置いている。最終授業時に、アンケートには「分かりやすかった単元」と「分かりにくかった単元」を具体的に書くようお願いしているため、難しいと感じたところについては、次年度に難易度を落としたり、長く説明したりなど、反映させている。実習についても、興味深いと感じる学生が多かった実習とそうでない実習をアンケートで回収し、進め方の改善点などが具体的にあれば、次年度のシラバスや実習で反映できるものは反映させている。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

実習の進め方や事前学習、事後学習について、教員-学生間の齟齬が少なくなり、年々評価が相対的に上がってきており、満足度の高いコメントが多く得られるようになってきていると感じる。改善・向上の成果として、「食物アレルギー論」および「食品学実習」でグッドティーチング賞を受賞させていただいた。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

学生に好評だった点をさらに意識して、次年度の授業に活かしていきたい。改善点についても、変えられるものについてはすぐに改善したい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業の終わりに、学習した内容のまとめ問題を解いてもらい、模範解答を解説することで、その日の授業のダイジェストを簡単に行う。翌週の授業の始めに、前週行ったまとめ問題と同じ問題を用いて、小テストを行う。毎週少しずつ覚えていくので、記憶の定着が図れる。また、小テストの採点は教員自身が行うため、どこでどのくらい理解できているかの把握ができ、間違いが多かった問題については詳しく解説するなどの対応ができる。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

授業評価アンケートにおいて、「小テストで復習できるのが良かった」という学生の評価を得ている。また、実習では、各々の学生から提出されたプレゼンテーションスライドを無記名作品として学生全員が品評し、ベストプレゼンテーションを投票する試みを行った。評価者の立場になる経験が新鮮だったこと、上位に選ばれた学生は皆のコメントが自信になったとの声を得た。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

可能な限りFD研究会には参加するようにしている。予定がある、もしくは遅い時間帯に実施されるFD研究会については、オンタイムで参加できないものの、後で映像を見て参加することで補填している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期的な目標：

- ・ 授業担当科目を履修している学生の顔と名前を全て一致させることから取り組んでいく。
- ・ 個々の学生の理解度の把握に努める。
- ・ 脱落学生のケアを早めを実施する。

長期的な目標：

- ・ 成績上位・中位・下位者に応じて、アプローチを柔軟に適応し、授業あるいは研究活動のやる気を引き出し持続させる。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

授業評価アンケート、シラバス